

Ohmi Net

おうみネット

おうみネット

Communication Paper for Voluntary Network in Ohmi

人と人を結ぶ♥ 作 杉尾尚子

ネットストーリー

“NPOのリスクマネジメント”編



シリーズ～NPOへの素朴な疑問～<第11回>

官製NPO?

市民&企業&行政ネット

め・と・て・とねっと

月の輪自動車教習所

安全な初心運転者育成を柱にフリマで新旧住民の交流を図りカルチャーや音楽、演劇など文化情報を発信していきたい。

おうみネット リレーエッセイ

●トピックス

NPOのためのリスクマネジメント

～リスクと上手につきあうためには～

●スポットライト

私たちががんばってます!NPO

- 自助具ボランティア ケアクラブ002 (おおつ)
- CASN (Children's Action Support Network)
- 里山保全団体 やまんばの会

伝言板 1月・2月

●センターインフォメーション

センターインフォメーション
 おうみ市民活動交流会開催
 淡海ネットワークサロン開催のお知らせ
 ほか



淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

シリーズ～NPOへの素朴な疑問～

[NPOって ナニ?]

第11回 官製NPO?

NPO=民間非営利組織をわざわざ「民間」と断っているのは、行政でもなく、もちろん行政の統制下になく、行政と一線を画しているということを外に向かって示している言い方だと言える。そうした民間の自主自立的な組織であるはずのNPOの中で、最近気になるのが「官製NPO」だ。

「官製NPO」とは、行政が設立に深く関わり、あるいは主体的役割を果たし、運営面でも行政の庇護・管理のもとにあるようなNPOという意味合いである。言葉だけから判断すれば、「官製NPO」というのはあり得ないということになってしまうが、現実には大手を振ってNPOを名乗る「官製NPO」が闊歩している。例えば、公共施設の管理をするために、行政がその運営に関わりたい人を募集してNPO法人を作り、そこへ業務委託をする。あるいは、行政活動を補完する意味合いで、行政が募集したボランティアをそのうち組織化（NPO化）していく。市民参加で行った行政の計画づくりのための委員会を衣替えしてNPO化するというようなものだ。

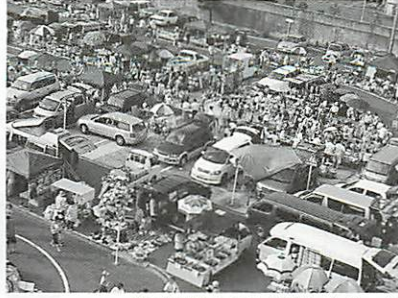
行政は市民に対峙するとき、何らかの団体を作って、そこへの補助、委託、職員派遣等を行ってきたということも過去にはあった。中には、行政が呼びかけた団体の事務局をそのまま行政が持っているというケースもある。NPOが社会的な評価を得つつある中で、行政が従来型の対応でNPOを作ったり、NPO設立に深く関わることはいかなるものであろうか。

自分の意のままになるNPOづくりを行政が仕掛けることは、NPOによる社会監視、新たな社会ニーズの発掘や社会サービスの提供といったNPO本来の機能を失わせることになる。しかも、行政とNPOとの協働自体が歪められることにもなる。行政はコントロールできるNPOを作ろうと考えたりしないこと、市民側もそういう「官製NPO」を作ることに荷担しないことが求められている。良かれと思ってやるのが、実はNPOが活躍できる市民社会を阻んでいるのである。(市民熱人)

カルチャースク
ールやギャラリ
ーにも提供



音楽や演劇の情報発信基地としても注目（写真は
大津JC主催のレゲエカーニバル）



地域の町おこしの核となる、夕涼みフリーマーケット



総務部長 前原敏文さん

めとてとねと

市民と企業の行政ねと

安全な初心運転者育成を柱にフリマで新旧住民の交流を図り
カルチャーや音楽、演劇など文化情報を発信していきたい。

月の輪自動車教習所

昭和36年に、大津市瀬田月輪に月の輪自動車教習所を設立。創業以来、順調に業績を伸ばし、通算卒業者数は10万人（個人全体の18%）を突破したそうです。平成8年に新社屋のリニューアルを機に、一般の人でも利用できるオープンカフェやインターネットスペース・カルチャースクールなど、地域のコミュニティホールとして有効活用してもらったという、新しい夢をのせた教習所が誕生。そもそも、近所の人が矢橋の花火を見ようと教習所のコースに集まっていたのがきっかけで、企画された夏の恒例行事「夕涼みフリーマーケット」も昨夏で5年目を迎えました。前原社長夫妻が、「広いコースで花火を見ながら、皆がワイワイと楽しめるような祭りを開き、地域に貢献できたらいいな」という願いを実現させたカタチです。花火大会はなくなったものの、フリーマーケットの規模は年々拡大し、今年に入場者が5000人を超すほどの人気ぶり。フリマの出店数も100店舗以上集まり、参加費の半分は交通遺児のための寄付金とし、残り半分は子どもたちが楽しめるゲームの商品とし



子どもや高齢者を対象にした交通安全教室

て還元。「広がれ！仲間の輪、心の輪」というテーマで、毎年FM滋賀のピンクラジオスで生中継されています。昨年は、滋賀の演劇界をリードする劇団異国幻燈舎公演や、大津青年会議所主催の「レゲエカーニバル・ウルトラウキウキ2002@月の輪」が開催されるなど、若手の役者やミュージシャンたちを応援する情報発信基地としても注目されています。一方、地域の子どもや高齢者を集めて交通安全教室を年2回開催。依頼に応じて大学に出張安全教室にできることもあります。このように、交通安全はもとより、町おこしや文化情報発信基地として挑戦を続ける月の輪自動車教習所は、地域のコミュニティの核として大いに活躍してほしいと思います。

月の輪自動車教習所

TEL.077-545-2222(代) FAX.077-545-2017 <http://www.tsukinowa.co.jp>

「木は生きている」

心をむすび* リレーエッセイ



吉見 静子さん

次回は八幡堀を守る会の
西村恵美子さんです

おかみさんは踏台の木の塊をいとしげに撫でながらいつか。
「この台がここでの私の今日までの生活をみんな知っているんです。」
日野商人本宅調査の間取り中のことであった。五〇×三〇cmに高さが二〇cmほどの木の塊は長年の間に拭きこまれて独特の光沢をはなつ。
「この家にお嫁にきて、最初に上へあがったのが、この踏台からだいどこ（現在のダイニング・リビングルーム）へだった。」
当時の本宅のおかみさんは地域の丁稚候補者である子供たちに読み書き算盤を教え、子供の性格や向不向を見定めて出店へ送り出す任務を果たしていた。種々の心労があったであろう。
木は呼吸するという。あの塊はおかみさんの心の言葉を黙って聞き、ときには励ましていたのであろう。そして、この家の柱や梁は代々の家人の思いを聞き、この吹き抜けの空間に抱き込み、座敷の床の間や仏間に家の誇りと先祖への感謝を表してきたのであろう。このことを次代の人々に伝えたいと思い、重い調査道具を抱えて、今日も調査地向かっている。



PROFILE

宇田川智弘 (うたがわともひろ) さん

社団法人日本損害保険協会生活サービス部NPOグループ副長。NPO活動の支援や損保社員のボランティア活動促進に向けて取り組んでいる。NPOのリスクマネジメント啓発のため、日本NPOセンターと共同でパンフレット「NPOのためのリスクマネジメント」を作成。

TOPICS

NPOのための リスクマネジメント

〜リスクと上手につきあうためには〜

もし、活動中に事故やトラブルに巻き込まれたら自分たちはどう対処したらいいのだろう、と思ったことはないですか？ 日頃あまり意識されませんが、リスクは活動のあるところどこにでも潜んでいます。今回の特集では、さる11月8日に社団法人日本損害保険協会の宇田川智弘さんを迎えて開催した「わくわく市民活動ゼミナール2002」の内容をお伝えします。

リスクマネジメントとは？

NPOを取り巻くリスクとは何でしょうか。活動中に起こる様々なリスクの存在を感じていても漠然として分からないと言う人が多いのではないのでしょうか。リスクとは、一言で言うとは損失が発生するかもしれない不確実な要素と定義できます。自分たちの活動を阻害する要因全てをリスクと呼ぶことができます。リスクには、例えばスタッフの労働環境、重要文書の保管など各NPOに共通する組織運営におけるリスク、また、NPOが提供する活動やサービスなど事業面におけるリスクの大きく二つに分けることが出来ます。こういったリスクが発生することで、人・もの・金・情報・信用といった有形無形の資産が失われること

になります。そのリスクに対応するための手法がリスクマネジメントです。

リスクマネジメントのポイントとして4点あげることができます。

- ① リスクは発生するもの、回避できないものと意識すること。
- ② 発生するリスクがどこに存在し、どう取り組んでいくのか考えること。
- ③ リスクに対処するには、可能な限り効率的かつ効果的な方法で取り組むこと。
- ④ PDCAのプロセスを重視すること。PDCAとは、リスクに対応するために、計画を立て (Plan) ・ 実行し (Do) ・ 見直し (Check) ・ 改善を図る (Action) ことです。リスクマネジメントとは、どのようなリスクがどこに存在し、そ

リスクマネジメントの手順

リスクマネジメントの手順で最初に行うのはリスクの発見・把握です。自分たちの団体にどんなリスクがあるのかをまず全て洗い出すことが大切です。最初のこの段階でリスクが発見できなかったり見落としてしまうと、後にリスクが発生し予想外の損失を被ることに繋がるので、この作業はとて重要で。一般的には、チェックリストとかフローチャートを用いてリスクの発見・把握を行っていきます。

次に、洗い出したリスクの大きさはどれくらいか、発生頻度はどの程度あるのかを評価・分析する

のリスクにどう対処するかを知って管理していくことです。



社団法人日本損害保険協会
啓発パンフレットとビデオ
生活サービス部NPOグループ
TEL : 03-3255-1294
http://www.sonpo.or.jp

ことが必要です。その後、評価・分析したリスクについて、リスクの処理を行うこととなりますが、リスクの種類や性質に応じて4つの処理方法があります。一つはリスクの予防や損害を小さくする対策をとること（リスクの軽減）です。これはリスクの処理の中でもっとも効果のある方法です。二つ目はリスクが起これば損失が大きくなるものについて、保険を利用するなど団体以外で損害を負担すること（リスクの転嫁）です。三つ目は逆に比較的損害が小さいもの、自分たちの団体の処理できるものについては団体の負担する方法（リスクの保有）があります。四つ目としてリスクのある活動自体をやめてしまうこと（リスクの回避）です。ただ、リスクを回避ばかりしていると、経営自体成り立たないので現実的な方法ではないと思います。そして最後に、確認・フォローをします。大事なことは、リスクの処理をしたことで終わりではなく、リスクマネジメントの手法が十分な効果をあげているのか、目的が達成されたのかどうか必ず確認し、実施による効果と費やしたコストのバランスを考えることです。そして、マネジメントは継続して見直し、改善していくことが大切です。

ボランティアリスク

最後にNPOが共通して有し、かつ最も問題が大きいボランティアリスクについて説明します。これは選考・採用、監督、評価見直しという3段階で考えます。

まず、選考の段階では、自分たちがボランティアに何を求めるのかを明確にして選考することが大切です。ボランティアの起こした事故でもNPOが賠償責任を問われるということが起きていますので、自分たちの選考基準をしっかりと定めて、人物を見極めて選考することが大切です。また、必要最低限の決まりとか、これはやって欲しいと言うことを契約書あるいは合意書として採用者と交わしておくことで互いの責任を明確化することも必要です。契約期間を定めることよってボランティアの見直しをする事も重要な点だと思います。

次に監督段階ですが、まず教育研修の徹底を図ることです。一般の人はボランティアを通して組織を見ますので、組織のミッションをボランティアに伝えておくことが大切です。そしてトラブル事例を把握しておく必要があります。また、合意した役割を超えた活動をボランティアがした場合、団体としてどこまで責任を負うのかも

あらかじめ明確しておく方がよいと思います。

そして、評価・見直し段階では、活動に対する評価を行って、実際に何ができて何ができなかったのか、何が問題だったのかを必ず見直しすることです。ボランティアをお客様扱いすることでNPOがリスクにさらされるケースもあるようです。よくやっていたボランティアについては契約を更新するとか、問題になったケースについてはそこをみんなで検討してなくすということが必要だと思います。

活動する以上リスクはなくならないものです。リスクがあるからといって活動を控えるのではなく、早期にリスクを発見し対処していくことが成功につながる鍵になると思います。



リスクマネジメントについて熱心に説明を聞く参加者のみなさん

あなたの団体のリスク対応度チェック

チェック方法

- ①該当する場合は、チェックをしてください。
- ②項目ごとのチェック数を数えて、リーダーチャートの目盛の該当数字を○で囲んでください。
- ③それぞれの○の位置を線で結び、リーダーチャート完成させてください。

リスクへの意識

- 組織のリスクを把握している
- リスクに備えたプランを持っている
- プランの内容をスタッフが理解している

人事管理

- 就業規則を文書で作成している
- ボランティアと契約書または同意書を書いている
- 重要な契約については、文書を書いている

モノ・災害

- 退出時には戸締まり、火の元の確認を行っている
- 地震に備え、棚やコンピュータなどを固定している
- 警察や消防などの連絡先を知っている

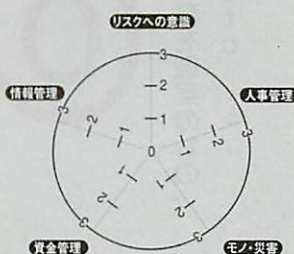
資金管理

- 資金は責任者ならびに担当者により管理されている
- 事務所内には、多額の現金を置いていない
- 現金や会計帳簿は、ルールに従って保管されている

情報管理

- 重要なデータはルールに従って管理している
- 知り得た情報について守秘義務を徹底している
- 重要なデータのバックアップを取っている

リーダーチャート



私たちががんばっています！

NPPO

どういうふうにしたら、もっとみんながイキイキと元気に暮らせるか—そんな素敵な夢を現実のものにするために、日夜奮闘しているNPPOの皆さん。環境・福祉・子ども・まちづくりetc. . . . 滋賀県に新しい風をおくるフレッシュな市民活動をご紹介します。

私たちが作った自助具で、私たち自身も生き生きと前向きになれるんですよ

●自助具ボランティア ケアクラフト002 (おおつ)



●発明協会知事賞を受賞した「座薬挿入エイド」の説明をする代表の岡崎さん。

ケアクラフト002 (おおつ)

代表 ●岡崎一郎
連絡先 ●TEL/077-579-2898
設立 ●1999年9月
会員 ●32名

※自助具のお問い合わせは、大津健康福祉センター・健康福祉推進課 TEL.077-522-6766

手の甲で軽く抑えるだけで出てくるシャンブーホルダー、ジュースがしっかり飲めるストローホルダーなど、アイデアいっぱい道具が目の前に並んでいきます。これらは体の不自由な方からの依頼を受けて、ケアクラフト002 (おおつ) のメンバーが製作した自助具。「障害を持った方々は、家族やヘルパーさんの助けを借りながら、内心は自分でやりたいってくやしき思いをされてるんですね。そんな方たちの自立を助けるための道具を製作しています」と代表の岡崎さん。

●坂本市民会館での工房風景、活動は第1、第3水曜日。他に龍谷大学で第2、第4水曜日開催中。



室内で製作しています。おもに健康福祉センターを介して注文が入り、試作を重ねて最終的に完成した道具についてのみ、材料費だけをいただくというシステムです。「リュウマチの方から痛み止めの座薬を入れる自助具を頼まれました。家族に入れてもらうのを自分でやりたいということですね。完成したときはすごく喜んでいただきましたよ。工夫を重ねたこの座薬挿入機は県の発明協会の奨励賞を受賞したとか。その他にも、歩く時に吊り下げる尿パルーンのカバーを手作りしたり、持ちやすい箸、片手用茶碗ホルダーなど、障害の症状や程度によって個別に対応したものを約50種類作りました。

「自助具を使うことで、本当にみな

さん前向きに明るくなりますね。私たちもお役に立てたと実感できることがうれしい。障害を持った方々の自立を助けることが自分たちの生き甲斐にもなるんですね」と岡崎さん。新しいメンバーも増え、県内にある同じような工房とも情報交換し、活動の輪は広がりつつあります。まず「ものづくり」に興味を持ってもらおうと、今後は、高齢者や健常者、学生や子どもたちとも交流したいとか。困っている人はまだまだいるはず、自分たちの活動をもっと利用してもらいたい、これがメンバーの熱い思いです。

(編集ボランティア 松井由美子)



●押す力のない人のための片手シャンブー容器 (600円)



●ストローを持っていない人のためのストローホルダー (200円)

S
P
O
T
L
I
G
H
T

日時：2002年12月20日から12月22日
(朝6時から夜12時まで)



●昨年12月に実施した「しがチャイルドライン」のPRカード

一度しかない子どもの時代を、どう生きればよいか。CASN (Children's Action Support Network)は子どもと一緒に考え一緒に行動しようとする大人たちによる組織である。

活動の中心は、電話で子どもの声に耳を傾けるチャイルドライン。イギリスで始まり、日本では1998年に俳優の牟田悌三氏が東京・世田谷で始め、いま全国に広がりつつある。子どもが抱えている悩みを子どもの心に寄りそって受けとめる。本当に難しい仕事だ。2002年5月に実施したはじめてのチャイルドラインでは、3日間で300件を超える電話があった。

「何か話したいと思ってダイヤルを回したが、すぐには喋れなくて、電話を切ってしまう子もいます」。いじめ・異性との交際、性格や体のコンプレックス・家族との悩み等々。そのひとつひとつに対応していくには辛抱強くないと続かない。「そうか、そやなあ」顔は見えないくても、子どもは話をしているうちに反省したり勇気を取り戻したりできる。

「子どもの権利」を尊重しながら、地域社会で子育てを

●CASN (Children's Action Support Network)



●昨年10月20日に開催した「キッズフェスティバル2002」の様子

（編集ボランティア 森口行雄）
いう、熱い思いが伝わってくる。

い浮き草です。本当に悩んだり孤独に苦しむ子どものところまでいけていませんと代表の谷口さん。だが「子どもの権利」を尊重し、地域社会で子育てをと

NPO法人CASN (カズン)

代表 ●谷口久美子
連絡先 ●TEL/090-7551-9203
●FAX/077-545-4038
設立 ●2001年5月
会員 ●48名
mail ●info@casn.org



●代表の谷口さん

大人と子どもが山を元気にし、山は人を元気にする、すてきな循環を

50年前まで、山は私たちに食べ物や薪を提供してくれる生活の宝庫でなくならず、光も地面に届かないほど山は荒れ、松食虫による松枯れの被害も目に余る状況が広がっています。

2年前に近江町のプロジェクトとして山林の松枯れに取り組んだのがきっかけで、現在は民間組織で里山保全に取り組む「やまんばの会」が生まれ、里山の松枯れや光もささないほど覆い茂った木を切る里山保全活動、そして、幼稚園児の遊び体験や小学生の総合的な学習の時間での体験学習の支援を行っています。その活動の拠点となる「やまんばの森」は、山の地権者の理解と協力により借りているもので、その中心には交流や休憩の場としてのログハウスを1年半かけ手作りで整備しました。訪れた子ども達は薪割り、カブトムシの飼育、ピザ焼き、細い木や枝を切る里山の手入れ、そして夏場にはため池でカヌーなど、自然を自由自在に楽しむことが出来ます。里山保全の活動は、「やまんばの森」に絶滅危惧種が生息していることなどから、その生感、さらにササユリなど以前には見られなかった草木が自生してきたこ



●里山整備活動の様子。急な斜面での作業は危険をとまう。



●会員みんなで1年半かかって手作りの「やまんばの家」



●事務局の北村剛さん

里山保全団体 やまんばの会

代表 ●大林文彦
連絡先 ●坂田郡近江町戸戸488-3近江町役場内
TEL/0749-52-3111
FAX/0749-52-4858
設立 ●2000年5月
会員 ●65名
URL ●http://www.biwa.ne.jp/~paison-f/index.html
E-mail ●yamanba@town.omi.shiga.jp

を再認識できるような活動を目指します。
（編集ボランティア 阿 上岡真実）

などの環境の変化が、パロメーターとなって現れてくるようです。「みんなが楽しいから続けられる」と北村さん。「やまんばの会」は里山を生き返らせるだけでなく、その里山で誰でも自由に自然とふれあい、自然の大切さを再認識できるような活動を目指します。

だいたい金曜日は朝から事務局に居ます。

(財) 淡海文化振興財団理事長 山川 明子

東京で働いていた頃、定年になったら滋賀へ帰って地域ボランティアをと、真剣に考えていたものです。念願叶ってと言うには責任の重いポストですが、昨年12月から財団理事長に就任しました。手はじめに本誌1年分を読んでみて、やっぱり県民の皆さんのほうが知恵も工夫もあると、いたく感心。必要な情報を提供して、とにかく行動して頂く。どうしてもバリアが克服できないときに応援を買って出るの、わがセンターの役回りとか大いに納得しました。何事も初心に帰って取り組みますので、色々意見を聞かせて下さい。



ブックレットVol.18発行

わくわく市民活動ゼミナールの記録をまとめた淡海ネットワークセンターブックレットVol.18を発行しました。「市民型公共事業-アサザプロジェクト-よみがえれアサザ咲く水辺-霞ヶ浦からの挑戦」飯島博さん(アサザ基金代表) 1冊300円(送料別)ご希望の方はセンターまで



おうみ未来塾3期生グループ 研究成果発表会・卒業式

日時: 3月8日(土) 13:00~
場所: ピアザ淡海県民交流センター207会議室
※おうみ未来塾3期生の4つのグループが1年をかけて研究してきた成果を発表します。

おうみ市民活動交流会開催

日時: 3月1日(土)
場所: 野洲文化ホール
※テーマ等詳しくはセンターHPをご覧ください
か、お問い合わせ下さい

淡海ネットワークサロン開催のお知らせ

【テーマ】「情報誌作成のコツ・取材のツボ」
ゲスト: 祖父江立美さん
内容: 読んでもらえる情報誌作成のコツやいい話を引き出すためのツボを話していただきます
日時: 2月1日(土) 13:30~16:30
場所: ピアザ淡海県民交流センター206会議室
参加費: 300円
※参加ご希望の方はセンターまで

編集後記



国を愛する子どもを育てようというなら、子どもが愛せるような国づくりをするのが先だ。

いまの世の中どうも順序が逆のように思える。

(編集ボランティア・森口)

間伐といえば杉ヒノキを連想し、小ぶりな木を切って他の木に光が届くようにするものだと思っていました。しかし、里山などに広がる雑林の場合、20年~30年のサイクルであたりの木を全部切って新しい芽が出るようにすることで、いつまでも木が育ち続けられる環境を作ることが間伐というようです。この大仕事にいったい今後山はどうなっていくのだろうとあらためて考えさせられました。

(編集ボランティア・上岡)

アイデアいっぱい自助具。同じ人から何度も注文があるといいます。「せっかく作っても症状が進んで使えなくなる場合もあって」という岡崎さんのことばに、作っておしまいじゃないんだと気付きました。障害者の立場に立った物づくりは長いお付き合いの始まりなんです。

(編集ボランティア・松井)

明けましておめでとうございます。

昨年、淡海ネットワークセンターはNPOに対し人材や資金を援助する事業を始めましたが、予想以上の反響があり、人手や資金確保に苦労しているNPOの声を多く聞きました。今後も交流事業や情報提供事業などと併せ皆さんの活動を手助けする事業を積極的に行っていきたいと思っております。本年もよろしくお祈りいたします。

(事務局・笹山)

気になる一冊

淡海ネットワークセンター運営委員がすすめる

「人を動かす」

D.カーネギー著 創元社 1,300円

私たちは、仕事上のことや日常生活の中で、失敗したり思う通りに事が進まないことは、日常茶飯事です。

紀三井寺に参拝した時に頂いた葉に、「気は長く、心は円く、腹立せず、口慎めば、命長けれ」と言う諺がありましたが、今回紹介するのは、アメリカのD.カーネギーによる「人を動かす」です。人間関係を円滑にするための心掛けが判り易く語られております。

「相手の立場に立って物事を考える」「絶えず笑顔を忘れない」「相手の名前を覚える」「話上手より聞き上手」「相手との議論を避ける」「相手を心から認め、惜しみなく誉める」等について、例をあげて語られております。

ちょっとした心遣いにより、心豊かな毎日を過ごせたらこんなに嬉しいことはありません。これからも、自分の周りに、友人が集まってくるよう精進したいと思っております。

(辻 純男)

中田豊一「ボランティア未来論」

コモンズ、2000年8月

ボランティア論なんぞ担当している関係で、よくボランティア関係のお勧め本は、と訊かれる。相手がいわゆる入門書を求めている場合は別だが、最近よく紹介するのが本書だ。

著者は元NGO職員。「ちょボラ」「指一本でできるボランティア」など軽いタッチのボランティア観が蔓延する中、本書のメッセージは重く深い。著者自身がボランティアの矛盾・困難を見つめ、その克服方法を模索したものである。しかし、ボランティアを斜めからみて揶揄しているわけではない。「不断の自己変革という不思議を生きるボランティアという生き方に幸あれ」。これが著者の締めの言葉である。実践者こそが共感する快い重さと深さなのである。

(筒井 のり子)

淡海ネットワークセンター

(財) 淡海文化振興財団

〒520-0801 大津市におの浜1-1-20
TEL 077-524-8440 FAX 077-524-8442
http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net
E-mail: ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29~1/3を除く)
火~金曜日/9:00~19:00 土・日曜日、祝日/9:00~17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業会館、陶芸の森、草津コミュニティ支援センター、県社福協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さくらホール、滋賀銀行、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など



©無断転載を固くお断りいたします。

